

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152

メール info@takaoka-hongwanji.jp

新年を迎えて

高岡教区教務所長 西岡孝了

阿弥陀さまのおはたらきの中、その大智大悲のお心に促され導かれて社会的課題に積極的に取り組み、すべての人びとが心豊かに生きられる社会の実現を目指すのが私たち念仏者です。

(専如ご門主「年頭の辞」より)

新しい年をまた迎えることができました。阿弥陀さまの大慈大悲の願いの中にあつて、皆さまには、それぞれのお立場で、また感慨をもつて新年をお迎えのことと存じます。皆さまには、平素から教区の宗務推進に一方ならぬご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年五月専如ご門主の「伝灯奉告法要」が終わり、十二月には関係行事も終了いたしました。本年は、愈々、ご門主の「念仏者の生き方」(平成二十八年十月一日報告法要開始日のご親教)を基本とし、法要御満座の「御消息」を踏まえた取組みが、宗門総合振興計画としてより具体的に積極的に動き出します。高岡教区におきましても、その歴史と風土に醸し出された具体的な表現ができるよう皆さまのご意見を伺いながら取り組んでいきたいと思っております。

さて、高岡教区も二百九十を超える寺院と多くの僧侶門信徒からなる一つの「社会」です。その意味から高岡教区にも取り組まねばならない「社会的課題」が多数あります。その一つに皆さまの支援によって設立・運営されている井波別院、福光教堂や「教学財団」の今後の支援の在り方に関する課題があります。予ねてから、運営の当事者の切実な思い・悩みが教区の宗務

組織に寄せられています。今こそ皆さまには、その思い・悩みに寄り添い教区全体の議論にして頂きたいと願っております。

教務所は、皆さまの声を宗派当局に、そして、宗派当局の思いを皆さまに丁寧にお伝えするところである、と心得ております。職員一同、宗務は「聴聞」であると心得、微力ではありますが、精一杯努めさせていただきますので、尚一層のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

合掌

◇みんなでもちつき!◇十二月二十三日(土)

くほとけのこどものつどい

毎年恒例の少年連盟・寺院女性会連盟若女性部会・仏教青年会合同の「ほとけのこどものつどい」。

今年も、午前中のゲーム・もちつきの他、午後からはストローを使ったクラフト作り。こどもたちとスタッフをふくめ全体で約五十名の参加のもと、楽しい一日を過ごした。

午前十時半、仏参の指導・お話し・おつとめのこと、若手僧侶による室内オリピックでもりあがった。



お昼には、みんなで順番についたおもちと若女性部会の方々による豚汁をいただいた。午後からは、ストローをつかった立体的なクラフト(写真)づくり。複雑な形に少々困惑気味だったが、全員上手に完成させた。

お念仏の教えを引き継ぐ少年層を含めた若い世代の育成は急務。宗門も、子ども若者ご縁づくりを進めている。教区子ども若者ご縁づくり推進委員会では、教化団体対して参画をよびかけるため、来る一月二十四日に説明会を予定している。

◇高岡教区第十九次支援班が福島で餅つき

十二月二十五〜二十七日にかけて、教区災害救援活動専門委員会(織田隆夫委員長)の企画による第十九次支援班が全村避難の飯館村の仮設住宅を訪れ、餅つきとうどんの炊き出しを行った。

これは、東日本大震災発災の年から毎年、行われているもので、七回目となった今回は、中学生から七十代の九名が参加、飯館村の方々と共に餅をつき、交流を深めた。

今回は、これまでの派遣先であった仮設住宅が入居者の退去などで統合・廃止されていくなかで、初開催の会場を含め三カ所での催しとなった。初日は、今回、初めての訪問となった飯野団地。ここは三年前に福島県初の「原発事故による避難住民向け復興公営住宅」として造られた団地で、これまでの仮設住宅とは違い閑静な新興住宅の風情。町の中心にある集会所の庭で支援班がテントや釜の準備を始めると、周辺の家々から物珍しそうに集まってきた子どもたち。最初は遠巻きに



ながめているだけだったが、餅つきが始まると自然とその輪の中に入ってメンバーと打ち解け、和やかな雰囲気の中交流が持たれた。

また、翌日の吉倉宿舎では、毎年の教区ホームステイに参加している子どもたちが支援班メンバーと再会を喜び合った。この吉倉宿舎も六年の間に多くの家族が退所され、今や数件だけになっているとのことであったが、高岡教区の支援班が来ると聞いて駆けつけた方々が、あつと言う間に餅をつきあげられた。終了後の交流会では、二〇一八年三月末をもって飯館村吉倉自治会は解散するが、来年以降も夏のホームステイと年末の餅つきは続けて頂きたい」との声を頂いた。

最終日となった二十七日はあいにくの雪。しかし、会場の松川仮設に到着すると、すでに準備が整えられており、皆さんの期待と歓迎の気持ち伝わってきた。氷点下の寒さを吹き飛ばす様に力強く杵が振り降ろされ、「よいしょ〜!」の掛け声が響いた。松川第二仮設も入居者はかつての三分の一まで人数は減っており、しかし一年後の春までに入居期限が「延長」されたとのこと。「みんな不安な思いで日々を過ごしている」との声が聞かれるなか、織田委員長は「今後は飯館村内での企画など、村の皆さんの声を聞くなかで活動のあり方も考えていかなければならない」と応えていた。教区災害救援活動専門委員会では、今回、現地で伺ったご意見を基に、新年度に新たな支援・交流の活動を具体化したいとしている。



◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

「無関心」という差別

今年も高岡教区支援班に参加して来ました。(二頁に詳細)

東日本大震災から六年十月、これまで高岡教区内では個人・団体を問わず様々な「支援活動」が行われて来ましたが、近年は特に「原発事故被害」に向けた取り組みが「継続」されてあります。これは言うまでもなく「人体に有害な放射性物質」を原因とした「被害」であるが故の、「支援」の長期化である訳ですが、現在に至っては「国・東電(加害者)」と帰還困難区域の住民(被害者)の二項対立だけではない、社会からの孤立・分断を生み出す無理解、偏見や差別といった様々な不利益や不合理、不平等の被害に対する「支援」であると考えられます。ですから、教区においてはこれまでも映画上映や講演会の実施などを通じた啓発活動にも力を注いで来たことは、ご承知の通りです。

しかしながら、その様な私たちの取り組みの方向とは全く逆を行くかのように、日本社会は経済至上主義を基礎としながら「新たな原発神話の構築」「原発再稼働」に突き進んでいます。それと同時に、あの時、学んだ筈の「大多数者(首都圏)のために、少数者(地方)を犠牲とするシステム」(差別構造)についても、どこかに置き忘れてしまったかの様な状況です。沖縄の「基地問題」と同じく、「原発」はどこまでも「犠牲者」がいないと成り立たない国策であり、そのシステムを支持するだけでなく、「私には関係がない」と傍観するだけでも「犠牲を強いる側」「差別する側」に立つ

ていることを自覚しなくてはならないでしょう。

大規模な自然災害が起こるたび、「富山はいいところだ」と仰る方がおられます。しかし、私がこの六年の間に会った福島の皆さんは、普段、私が接する富山のおじいちゃん、おばあちゃんと同じ田舎の普通の人々でした。自然災害であれ原発事故であれ、その被害が普通の田舎の人々に深刻なダメージを与えていることが明らかになって来ています。震災から六年が経過し、そのダメージが社会的・経済的なものだけではなく、「家族の分断」や「生きがいの喪失」など、「人のこころ」に大きな傷を与え、さらに広がっているのです。今回、お会いした被災者のお一人は、その一つが「賠償金など被災者の状況への無知と無理解、無関心から来る差別」だと言われます。部落差別やハンセン病問題、在日差別などと全く同じ姿がそこに浮かんできます。

原発事故の報道も少なくなり、「風化」を感じます。また、「私人が反対と言っても何も変わらない」「政治が解決する問題」と「無関心」である理由を語る人もいます。しかし、問題自体が風化しているのではなく、むしろ私たちの感性や人間性が「風化」しているのではないのでしょうか？

正信偈の『五濁悪時の群生海、応に如来如実の言を信ずべし』の言葉は、そんな私たちに、「それでよいのか？」と問いかけているように思われます。私たちの信心の中身、そして様々な社会問題への意識やこれからの行動を問うているように思えるのです。

【高岡教区教区主幹 浜野信宏】

◇これからの日程（1/14～2/19）◇

1月	教区・財団行事	教化団体・組行事
14	常例法座 ※14, 15, 16日は御正忌報恩講のため 教務所事務は休業いたします。	
18	聖典セミナー	寺女役員会
19	組総代会担当者会議 ヤスクニ小委員会 教区新年会	
22	得度考査	
23		仏婦執行部会 寺女研修会（～24）
24	子ども若者ご縁づくり 推進委員会	長寿苑ビハーラ
27		保育研修会
29		仏婦新年会
2月		
10	ビハーラ研修会	
14	常例法座	
17	門徒推進員研修会	
22	聖典セミナー	

☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（170袋） 8,300円

・1組（10袋） 500円

お申込み先は…高岡市東上関446 高岡教務所内
（寺族青年会担当）
Tel. (050) 5587-7708(代表)
メール hourin18@gmail.com

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・738kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25
□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎1/20（土）：中川 清昭氏

（本願寺派布教使・福岡県願應寺住職）

「鏡に写った自分」

□1/21（日）：未 定

（富山教区）

◎1/27（土）：中川 清昭氏

（本願寺派布教使・福岡県願應寺住職）

「人と繋がりをもつこと」

◎2/3（土）：中川 清昭氏

（本願寺派布教使・福岡県願應寺住職）

「いのちを縁起の上から考える」

◎2/10（土）：和氣 秀剛氏

（本願寺派布教使・奈良県圓光寺住職）

「大切なこと」

□2/11（日）：青木 哲隆

（高岡教区新湊組覚円寺）

◎2/17（土）：和氣 秀剛氏

（本願寺派布教使・奈良県圓光寺住職）

「仏さまを大切に作る心」

【西本願寺高岡会館2月の常例法座】

ご講師：織 田 隆 夫 氏

（高岡教区五位組長光寺）

ご講題：『 未 定 』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。